

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年3月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102942
法人名	長崎貿易産業株式会社
事業所名	長崎貿易産業株式会社 グループホーム華の苑
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市中里1188-1 (電 話) 095-839-1194

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 21年 2月 26日	評価確定日	平成 21年 3月 31日

【情報提供票より】(平成 20年 4月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 1日				
ユニット数	1ユニット	利用定員数計		9人	
職員数	9人	常勤	4人, 非常勤	5人, 常勤換算	6.6人

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨一部木造	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,530～32,550 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(30,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(平成 20年 4月 10日現在)

利用者人数		9名	男性	0名	女性	9名
要介護1		3名		要介護2	1名	
要介護3		1名		要介護4	4名	
要介護5		0名		要支援2	0名	
年齢	平均	84.66歳	最低	72歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	和仁会病院、森内科医院、たら歯科医院、清原龍内科医院、大坪クリニック、とりやま歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年開設のグループホーム華の苑は、代表の自宅を改装して開設されたホームである。隣は家業の石材店作業所があり、ホームの裏は山に近く、川や木々の緑や紅葉、季節によってはホテルが飛び交い、タヌキ・サルなどの小動物も山から下りてくるようなどかな環境に位置している。“入所中の親を介護したい”という代表の想いで開設されたホームの経緯を職員は理解し、その想いから離れず普通の生活の場としてお互いを助け合い、思いやる気持ちで協力し合って仲の良い家族のような関係が作られている。ご利用者が、お客様にお茶を出して挨拶される場面もあり、ご利用者から「私たちは家族だから」という声も聞かれるなど、職員とご利用者が共に仲良く、一緒に暮らしているという雰囲気を感じられる。職員と一緒に積極的に家事に取り組んでおられるご利用者の姿が印象的で、食事の準備中、盛り付けに時間がかかって冷めてしまったり、お味噌汁の中に具が入ってないこともあるが、それも食事の中の話題の一つとなり、みんなで楽しく食事されるなど、ご利用者の力を発揮して頂けるようなケアに日々取り組んでおられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を基に①介護計画作成時、意思を明確に表明されないご利用者に対しても、表情や時々発せられる言葉の中から、思いを汲み取るよう工夫した。②運営推進会議に地域の方の参加をお願いし出席して頂いた。③職員を育てる取り組みの一環として、自己評価・他己評価システムを導入した。④ご利用者の力を発揮して頂ける様、職員が手を出さずに時間はかかっても見守る介護を行った。⑤新任職員の紹介を兼ねたコメントを家族通信に掲載するなど、全職員で話し合い取り組んできた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 会議の中で事務長・ホーム長より自己評価の説明を行い自己評価表を全員に配布し、意見を出し、取り組みたい事を書いて貰い、ホーム長が補足しまとめた。職員自身も自分たちのケアの見直しが出来、考え方の違いに気づき、疑問に思うことを話し合うきっかけもなった。既に取り組んでいる事に関しても、もっと出来るのではないかという思いが強く、改善課題についても前向きに話し合い、質の向上につながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 市の職員、自治会の会長・副会長、地域包括支援センター、ご家族、ご利用者をメンバーとして、3・4ヶ月に1回開催されている。外部評価についての説明と共に前回の結果・自己評価結果の報告を行った。参加者からのご意見を基に、ケアに関する研修会に出席したり、家族会の再立ち上げなど検討されている。会議の出席者に、高齢者疑似体験を行って頂いたり、講師を依頼して会議の場で「認知症の方々との出会い」などのテーマで講演して頂くなどの取り組みも行われている。参加者との交流を深める目的で、ご利用者と一緒に会議出席者のお宅を訪問し、次回の会議案内状をお届けしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族との会話の中で、ご家族の思いを推し量り、個別に報告・対応している。苑での行事や生活場面の写真を多く取り入れた家族通信等と共に、担当者の手紙を添え定期報告を行っている。職員の異動は家族通信やご家族の来訪時にお伝えしている。ご意見箱の設置や家族通信に苦情・相談の連絡先・担当者名を明記し、ご意見等を頂いた時は記録を回覧したり会議で報告・対応策等話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム開設当初地域の方々へ挨拶回りをを行い、代表の夫の両親の自宅であった事や自治会の会長・副会長との付き合いが長い事もあり、ホームを理解して地域全体に受け入れて貰っている。自治会へ加入し、家族通信を毎月地域に回覧して頂いたり、地域の方々への情報発信として、ホームの掲示板に介護保険に関する情報やお知らせを掲載するなどの取り組みも行われている。ご利用者と一緒に地域清掃や草取り、自治会の夏祭り等に参加している。ホームでのミニコンサートの開催、敬老会・クリスマス会・消防訓練等、ホームを開放している。保育園より子供たちの訪問も予定されている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人を主体とした日々の暮らしやケアの在り方、ゆつくりと関わる時間と“母親を介護したい”という思いを込めて、平成14年9月代表の両親の家を改築し開設する際に代表が考えて作った理念である。「自分の親を入居させたい、また、自分自身が入居したいグループホームを目指します。ご利用者の方及び、ご家族が共に安心して生活出来るグループホームを目指します。主体はご入居の方々です」を理念として掲げ、地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支援するという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表・事務長・ホーム長が、会議や日々の現場で、具体的なケアの場面に置き換えて理念につながる話をされていた。2年前より、理念に通じる倫理研究所発行の小冊子を用い、職員が良かったと思う所を読み感想を言って貰っている。理念を声に出して読む事で頭だけでなく体で理解できると、職員自ら考え会議前に唱和していく事を決めた。職員は出社時等「ただいま、おかえり」と自然な言葉で家庭同様の挨拶になっており、常にご利用者の立場に立って声かけを行い、地域の方々との交流を深める等日々実践されている。	○	ケアに携わる時など、常に理念を念頭に置いて関わりを続けているが、職員自身が意識して、ご利用者とゆつくり接する時間を更に増やしていきたいと代表は考えられている。更なる取り組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表の夫の両親の自宅であった事や、自治会の会長・副会長との付き合いが長い事もあり、ホームを理解して地域全体に受け入れて貰っている。自治会へ加入し、家族通信を毎月地域に回覧して頂いたり、地域の方々への情報発信として、ホームの掲示板に介護保険に関する情報やお知らせを掲載するなどの取り組みも行われている。ご利用者と一緒に地域清掃や草取り、自治会の夏祭り等に参加している。ホームでのミニコンサートの開催、敬老会・クリスマス会・消防訓練等ホームを開放している。	○	近隣の保育園から、子供たちを訪問させたいとお話があっているが、日程調整の関係でまだ実現には至っていない。園児との交流や地域の方々お気軽にホームに立ち寄って頂けるようなホームを目指した検討が行われている。ご利用者が参加できる地域行事や交流の場など、運営推進会議の場などを活用して情報収集を続けられ、更に地域との交流が深められることに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表は外部評価を重要視されており、評価結果に基づき積極的に改善に取り組まれている。会議の中で事務長・ホーム長より自己評価の説明を行い自己評価表を全員に配布し、意見を出し、取り組みたい事を書いて貰い、ホーム長が補足しまとめた。職員自身も自分たちのケアの見直しが出来、考え方の違いに気づき、疑問に思うことを話し合うきっかけにもなった。既に取り組んでいる事に関しても、もっと出来るのではないかという思いが強く、改善課題についても前向きに話し合い、質の向上につながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、自治会の会長・副会長、地域包括支援センター、ご家族、ご利用者をメンバーとして、3・4ヶ月に1回開催されている。外部評価についての説明と共に前回の結果・自己評価結果の報告を行った。参加者からのご意見を基に、ケアに関する研修会に出席したり、家族会の再立ち上げなど検討されている。会議の出席者に、高齢者疑似体験を行って頂いたり、講師を依頼して会議の場で「認知症の方々との出会い」などのテーマで講演して頂くなどの取り組みも行われている。ご利用者と一緒に会議出席者のお宅を訪問し、次回の会議案内状をお届けしている。	○	ホームでの行事の都合や会議出席者の都合などから、2ヶ月に1回の会議開催には至っていない。運営推進会議において、サービスの質の向上に向けた貴重なご意見を頂き、活用できていることから、年間行事として、ホームの予定に盛り込まれると共に、早めに会議開催日を出席者にお知らせするなどの対応をされてみてはいかがであろうか。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長はご利用者と一緒に、定期的に家族通信を持って市の窓口を訪問したり、ご利用者とドライブに行った帰りに、顔馴染みの地域包括支援センターの方を訪ね、お話しをして帰ってくることもある。ホームでの課題を地域包括支援センターや市の担当の方に相談し具体的なアドバイスを受たり、家庭の事情でホームでの生活が困難になってきたご利用者に対し、低賃金での入居可能な施設を探して頂くなど、親身になって相談に乗って頂いている。	○	グループホーム協議会の地区長をしている関係から、市の担当者や接する機会も多く、介護保険に関する情報などを今後もホームの掲示板を活用して、地域の方々にお知らせしていきたいと考えられている。市との連携を通して、地域への情報発信の拠点となれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が知りたい内容や頻度に違いがある事を意識し、会話の中でご家族の思いを推し量り個別に対応している。苑での生活状況や行事写真を多く取り入れた家族通信と共に往診記録のコピー、レシート・金銭出納簿のコピー、担当者の手紙を添えて定期報告を行っている。さらに、ご家族が来られた時にも職員が口頭でお伝えし来訪がない時には電話をしている。前回の外部評価以降、家族通信に新入職員のコメントと共に写真入りで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や家族通信に苦情・相談の連絡先・担当者名を明記し、何かあった時にはノートに記録し閲覧したり、会議で報告・対応策等話し合っている。ご利用者家族と代表が子供を通じた知り合いで家族会の設置を呼びかけ、会議等に積極的に参加されていることもあり、家族会会長を引き受けて頂いたが、家庭の事情で一時中断している状況である。	○	ご家族から、感謝の言葉やお褒めの言葉を頂くことは多いが、苦情等は少なく、本音で率直なご意見を頂けていないのではないかと代表は考えられている。家族会の再設立と共に、ホーム行事の後に引き続きご家族だけで話し合い、直接言い難い事などを話せる場を作っていくなど、ご家族の意見を言って頂ける環境作りに向けた取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的な異動はなく、ホーム長が休み等の希望に極力応じ、職員の悩みや相談に対応したり、メールで相談に応じる等、離職予防に取り組んでいる。職員交代時はご利用者のその時の状況に合わせて説明方法を変え、他職員がフォロー等している。退職した職員がホームを訪問することもあり、職員新年会は全員が食事会に参加できるよう、退職した職員に夜勤をお願いするなどの対応も行われている。毎月のお給料は、代表が職員に手渡しするようにしており、職員の面接を兼ねた相談の場となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの資格や経験年数に応じて、外部研修に参加して貰い研修費を補助している。代表の発案で“いいこと箱”を設置し、本人や他の職員が行っているケアや対応で“良いケア”を行っていると思ったら、自己・他己評価した内容を紙に書いて投函するシステムを取り入れた。職員の気づきがケアの質の向上につながるという目的と、投函枚数に応じて、上限額を定めた謝礼金をお給料に加算し、職員自身のやる気にもつながることを期待されている。資格取得等スキルアップについて個々に声をかけているが育成計画として明文化したものはない。	○	半年前から外部カウンセラーをお招きして、相談に応じて頂き助言など頂いているが、今後は新人教育をお願いしたいと代表は考えられている。代表は、職員を育てたいという思いから自己評価・他己評価システムを取り入れられた。評価結果を基に、個人のレベルに合わせた目標・目的を明確にし、計画・評価を行う事で、職員自身、方向性が明確化され、自己啓発・向上心に結び付けられると考えられる。更なる取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表が長崎県グループホーム連絡協議会の元理事である経緯もあり、交流の必要性は痛感している。現在は長崎ブロックの地区長を勤めているため、近隣の同業者と定期的に会議や研修会を開催し、同業者間の連絡調整役を担っておられる。提携医療機関の勉強会への定期的な出席、連絡協議会・交流会に職員も参加している。今年度内に職員間での相互訪問が予定されている。	○	職員間の相互訪問の機会が予定されており、他ホームでの取り組みを見学することで、学べる良い機会になると思われる。他ホームからも来て頂き、職員同士の交流が深められるよう今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、事務長やホーム長が自宅や入院先を訪問し、生活歴・環境等ご家族からお話しを聞き、顔馴染みの関係を作るようにしている。また、自宅や入院先に何度も足を運び、ご家族の相談に乗ることで、ご家族との信頼関係も築かれている。入居後はご本人が安心できるような言葉かけを心掛け、マンツーマンで対応している。ご家族に担って頂く役割として訪問回数を増やして頂き、ご家族と話し合い協力を頂きながら早く馴染んで頂けるようにしている。夕方不穏な様子が見られる場合は、職員が散歩にお連れしたり、時には添い寝をして、お話しをじっくり聞くなどの対応も行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から「昔はこういう風に料理したわよ」と旬の食材の調理の仕方を教えて頂いたり、「お疲れ様、まだ帰らんとね」と気遣いの言葉をかけて頂く等、仕事をしていく上での支えになっている。「人間死ぬまで勉強よ」と学びの大切さを教えて頂き、一緒に干し柿作りをしたときや、ひ孫さんの誕生に喜ぶご利用者を見て、職員も一緒になって感動したこともある。ご利用者から「私たちはみんな家族」という言葉も聞かれるほど、お互いに支えあう関係となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の幼少期から老年期まで、その時代時代におけるエピソードや印象に残っていることをご家族に記入して頂いている。入居後、1人ひとりの思いに近づく為に生活歴・生活習慣・趣味・好きな事・嫌いなこと等をできる限り把握し、言葉かけをしたり物品を示すなど、日々の行動を共にし、表情を見ながら、思いを汲み取るようにしている。意向の把握が難しいご利用者に対しても、時々発せられる言葉の中から、思いを汲み取れるときがあり、返答はなくても諦めずに他のご利用者と同じように声かけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全ご利用者について1人ひとりの状況・思い・生活習慣・好み等を踏まえた個別の課題・目標が記載され、“地域で暮らす”という視点も盛り込まれている。専門用語等を避け、やさしい言葉に置き直し本人にとってマイナスにならない様な表現になっている方と、一部専門用語が記載されており、説明しにくい方がいるが、ご利用者のご家族や職員の気づき・意見の反映は出来ており、ご利用者のかかりつけ医や地域包括支援センター職員、外部カウンセラーにも相談し計画立案している。	○	ご利用者自身が言われた言葉や、馴染まれている言葉での表現もみられるが、一部専門用語が見受けられる。説明を付け加えないとわからないと思われることから、ご利用者・ご家族が見ただけでわかるような、表現に置き換えられてみてはいかがであろうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行い状態に変化が生じた時には、ご家族からのご意見や職員とも協議し計画作成している。月2回のケア会議で気づいた事や変化があった事等、職員より聞き、ご家族が来られた時に要望などお聞きしている。	○	ご家族が来られたときにご意見を伺ったり、ご意見を記入して頂く用紙を郵送しているが、ご家族のご意見が少ない場合がある。職員全員で、意見や要望の少ないご家族に対して、遠慮なくご意見を言っていたりするような関係作りをしていきたいと考えられている。更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご要望によりお地藏さん参りや、花を見に行ったり、連絡調整をし外泊支援を行っている。ひ孫さん誕生の話しを聞いて、病院まで面会にお連れした事もある。ホーム内に看護師は居ないが24時間の医師・看護師による往診・訪問体制があり、相談したりアドバイスを頂けご家族・職員共に安心できる状況である。昼間は訪問看護師の付き添いにより点滴が受けられ、入院をしないで生活が継続できている事もある。必要時には病院を紹介して頂き、入院先の医師・看護師との連携によりスムーズな転院が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人・ご家族のご要望を聞きながら、協力医療機関や専門性について説明している。認知症の権威と言われる医師が協力医療機関とすることもあり、1名以外のご利用者は、ご家族と相談の上、協力医療機関に変更されている。受診結果等変化があった時は速やかにご家族に報告している。医師と顔を合わせ直接状態報告をし情報交換等を行う事で、信頼関係作りはスムーズで常に医師との連絡が取れるようにしている。医療機関の所在地や受療の頻度・時間帯によっては家族と行って頂く事があるが、受診結果は把握出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要となったら入院して頂くなど、ホームとして対応できる範囲等をお互に定めている。ターミナルを希望される方もおられるが、全ご利用者・ご家族の意向は把握できていない。個別にご家族・医師・看護師と話し合いを行い終末期の方針を全員で共有し、ご家族のその時々々の気持ちの変化に配慮しながら、繰り返し話し合い、柔軟に対応し悔いが残らないよう、ご家族の気持ちを大切にしている。職員アンケートの結果、「今、現在は自信はないが、今後、更なる勉強を続け、医療的処置が必要とならない限り、全員でターミナルケアに取り組んでいきたい」と言う方針を固めた。医師・訪問看護師・職員で方針を共有している。	○	新しく入居されたご利用者もおられることから、全員の方に意向を伺ってはいない。身体的にはお元気ということもあり、ターミナルの話をするタイミングが難しいと言う事ではあるが、それぞれのご家族のお気持ちを把握しながら、少しずつターミナルに対するホームの方針としてお伝えした上で、現時点でのお考えを確認してみられてはいいかであろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の行動を察し、羞恥心や自尊心に配慮し小さな声を心掛け、排泄誘導している。ご利用者の前で職員間の申し送りをしたり、記憶や思い違いに対して否定的・指導的な言動をしないようにしている。個人情報を書かれた書類等の処理は行われているが、個人名が記入されたバイタルなどのメモがそのままゴミ箱に捨てられていることがあった。不必要に地域の方にご利用者やご家族の事をお話する事はないが、研修会の後に小声ではあるが個人情報に触れる話が出る事がある。	○	個人情報保護について意識し、月2回のケア会議等を活用して、職員間で気づいたことや、気になったことなど話し合い、自分たちの行動を振り返るなど検討されてみてはいいかであろうか。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の表情や行動から、外出したい様子や帰りたい様子が見受けられたら、ご家族に電話をかけてお話しして頂いたり、職員が時間をかけてお話を伺い、時には散歩をする等の対応を行っている。生活のリズムがとれるような声かけは行いが、無理強いせず、習慣やその日の体調・気分を尊重し、ご本人のペースに合わせている。希望を表現できないご利用者には、表情を見てそばに寄り添っている。体調不良で居室で過ごされている時には細めに様子観察をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物・食べたい物はないか尋ね献立・おやつに取り入れられたり、食材の買い出しや調理の下ごしらえ、食器洗いや片付け、テーブル拭き等時間はかかっても出来る事をして頂いている。お弁当を持って公園に出掛けたり、旬の食材や畑で作った野菜をご利用者と共に収穫して調理している。郷土食を献立に盛り込んだり、外食に出かけることもある。職員も一緒に食卓につきご利用者と同じ物を食べながら、声をかけ介助しながら一人で食べられるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯・回数がある程度決めているが、生活習慣を把握しタイミングを見て声かけし、希望に合わせた柔軟な対応をしている。体調をみながら湯温や順番、シャンプー・石鹸等も好みに合わせたり、個別入浴を基本とし危険がない部分については、浴室を開け脱衣所からの見守りなどしている。年間行事として菖蒲湯・ゆず湯、等楽しんで頂くための取り組みが行われており、今年度、温泉への一泊旅行が予定されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴・趣味・習慣や好きな事を本人やご家族にお聞きしたり、活き活きされる状況を観察し、個別の役割・楽しみ事を持って頂けるよう支援している。入浴中、お好きな音楽をかけたり、ドライブにお連れするなどの支援も行われている。ボランティアによる月1回のお煎茶教室も楽しみの一つとなっている。買い物の手伝いやお米とぎ、茶碗拭きや収納、洗濯物干し・洗濯物たたみ等、生活歴やご希望を把握しながら、活力を引き出す為に役割として継続して頂いている。	○	ご利用者の中には、身体能力が低下されておらず、入居以前に趣味としてされていたバドミントンなど、身体を動かすようなレクリエーションを取り入れていきたいと職員は考えられている。ホームの近くにある陶芸教室などの利用も検討されており、更なる取り組みに期待していきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒に食材の買い出しや、ホーム周囲の畑や花を見に行く等、機会ある毎に個別に外出している。教会や美容室へ出掛ける際の送り迎え等、生活の継続は出来ているが、地域外からのご利用者も多く、入居後馴染みになって来た場所や、希望に応じた外出に出来る限り対応している。ご利用者の散歩時には地域の方からもご挨拶を頂いたり、回覧板を回したり、ゴミを出しに行くときも一緒に出かけるなど、短時間でも外に出る機会を持てる様な配慮も行われている。	○	ご利用者の中には、外出時のトイレを心配されて、「行きたくない」と言われる時があり、以前に比べ外出回数が少なくなってきた。外出先のトイレの場所を事前にお知らせすると共に、ご利用者がお好きな場所を確認されてみてはいかがだろうか。短時間の外出や、興味を示される場所への外出のお誘い、春に向けてのお花見など提案され、気分転換がはかれるような支援の継続を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、どういたことが身体拘束に当たる行為なのかの研修を受け、会議で話し合いを行った。鍵をかけない暮らしの大切さを理解し21:00～6:00の防犯上の施錠以外は、日常的に利用する玄関等、自由に入出入り出来るよう開けている。安全確認の為に、職員が作業する場所や立つ位置を調整し声を掛け合ったり、玄関の出入りが確認できるようセンサーをつけているが、一人で外出されても後ろからそっと付いていたり、近所の方が何かあったら教えて頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・夜間の災害発生を想定し、定期的に職員・ご利用者・地域の方々・消防署の協力も頂きながら訓練を行っている。日頃より挨拶に伺いご近所協力隊をお願いしたり、地域の方を含めた連絡網もあり、電話で対応できる状況である。災害に備え救急箱・懐中電灯・ラジオ・ロープ・卓上コンロ・ペットボトル・お粥・乾パン・缶詰・日持ちする野菜等備蓄している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居前の食生活習慣を把握し味付けを変えたり、代替食品の利用や御飯にかけずに別皿に盛る、嚥下や咀嚼機能に応じてミキサー食にする等の対応をしている。食事量・飲水量の把握・記録を行うと共に、市の栄養士のアドバイスを受けながら、一人ひとりに応じた摂取量に配慮した盛り付けを行っている。食欲の低下しているご利用者には、栄養補助食品を利用して、栄養補給を行っていただいている。	○	管理栄養士をめざす栄養士を、近々職員として採用する予定となっている。外部の栄養士の方に、ホームが提供している食事の栄養バランスなど助言頂いているが、これまで以上に細かな管理が日常的に行われるようになるということもあり、今後の取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の重度化に対応し手すりやエレベーターの設置、滑り止めマットや風呂の段差解消、空調管理を細めに行うだけでなく、簡易トイレにバイオの脱臭剤を使用したり、玄関先で香を焚く等快適な生活空間に配慮している。季節に合わせ、ホットカーペットを置いたり、ソファの位置を変えるなどの対応も行なわれている。ホーム周囲の自然が奏でる川のせせらぎが聞こえるように、リビングの窓を開け、手作業で季節に応じたカレンダーや張り紙を行い、季節の移ろいが感じられるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が、以前暮らしていたお部屋の雰囲気になるように、家具の配置を行なっている。タンス・仏壇・鏡台・テレビ・裁縫物品やご本人・ご家族とも相談しながら、それがあつてご本人が安心できるような置物を置いたり、愛用の布団を持ってきて頂く等、居心地良く過ごせるよう工夫している。元々の造りを活かした雪見障子から外の景色が見られ、生活環境が維持できるようにしている。	○	入居して間もないご利用者の居室など、手作りの作品を飾るなど、もっともっとその人らしさが出せるようなお部屋にしていきたいと職員は考えられている。ご本人が居心地良く過ごせるような工夫への更なる取り組みに期待していきたい。